



佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方を提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。

啓明学園中学校・高等学校 校長 佐々 信行 (さっさ のぶゆき)

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当 (横浜市)、日本語イメージ・プログラム教諭 (バージニア州)・ワシントン補習授業校を経て、現職。

震災と日本人

◆その日の東京

大地震があった3月11日金曜日、東京の青山で海外子女教育振興財団の40周年記念シンポジウムがあり、私は地下2階の会場にいました。大きな揺れがあったものの、行事を中止しなければならないほどではなく、報告やパネルディスカッションなどのプログラムは予定通り終了しました。

地上に出てみると、いつもより多くの人が道を歩いているようでしたが、建物や道路の様子に変わりはないように見えました。一緒に出席した仲間の先生たちと、「地震対策ができていない外国の都市だったら被害が出たかも知れないね。」などと話しながら、のんびり渋谷まで歩きました。東北の地震の大きさや津波のことなど、私たちはまだ知らなかったのです。

渋谷駅に着くと、電車は全部止まっており、復旧の見込みも不明というアナウンスがありました。しかし、地震の被害を思わせるものは見当たらなかったのも、間もなく動き始めるだろうと思い、一緒に歩いて来た先生たちと分かれて、利用する私

鉄の駅に向かいました。入り口には鉄道会社の人が乗客を駅に入れないように立ち、「いつ動き出すかは全く分かりません。」と繰り返していました。これでは、駅前は間もなく人であふれて身動きができなくなるのではないかと思いました。しかし、乗客はつぎつぎにやって来るものの、駅員の話の聞くと立ち去る人が多く、駅員に詰め寄ったり、無理に駅に入っていくとしたりする人もいませんでした。そのうち駅員のアナウンスは、「歩いて線路の点検をするので、復旧までにはかなりの時間がかかると思われます。」となりました。それで、階段や通路の端に腰を下ろして、じっくり待とうという人たちが増え、私もその仲間に入って、持っていた本の続きを読むことにしました。だれもが静かで、落ち着いているように見えました。携帯電話で学校や家族に連絡をとろうと試みましたが、つながりませんでした。

1時間ほどそうしていたでしょうか。すると、「今日中に電車が復旧するかどうかは分かりません。駅構内にとどまらず、広域避難場所へ移動してください。」という放送が聞こえました。限られた情報ではあっても、次の行動を考えるためには役に立ちます。駅員の人たちが、このような場合に備えて日頃から訓練を重ねていることも感じられました。

駅の外に出ると、妻の職場がある虎ノ門方面へ行くバスが出て行くのが見えました。乗り場には長い列ができていましたが、次のバスが来ることに期待して並ぶことにしました。バス乗り場にはつぎつぎに人がやってきて、列はどんどん長くなっていききました。どこが最後尾かすぐに見つからないくらいになりましたが、どさくさにまぎれて割り込もうとする人はなく、まちがって途中に入った人は注意されるまでもなくすぐに気づいて後ろに並び直していました。いったん列が崩れてしまえばどこに並べばいいのかわからなくなり、大混乱になってもおかしくないほどの人数でしたが、どのバス停の列も整然としていました。日が落ちてから時間がたち、だんだん寒くなってきましたが、バス



地震の日の地下鉄駅構内